

数学講師

定松 勝幸氏

肖像

九州・沖縄

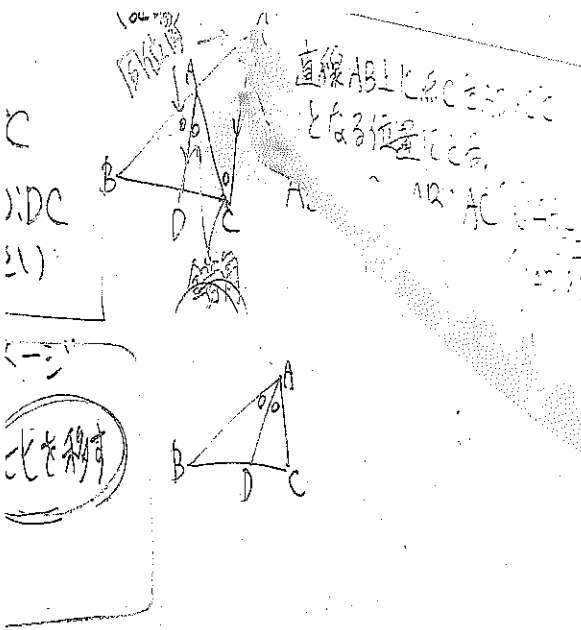
大手受験予備校で30年、全国の受験生を難関大に送りこんだ数学講師、定松勝幸(56)が、九州を拠点に新たな教育活動に取り組んでいる。信念は「生徒に学ぶ」。「5万人分の疑問」と正面から向き合ってきた経験を教員へ伝え、学校教育の底上げを目指す。

「難関大に行く生徒はどんな質問をしますか?」代表を務める福岡市の個別指導塾の教室で、定松は笑顔で記者に話題した。「一から教えた方がいいですか?」はずれ。答えは「(模範解答を手に)どうすればこの解法を思い出すか、です」。

「生徒に学ぶ」教員鍛える

病弱だった幼少期、定松が親しんだのは昆虫図鑑だった。はじめは昆虫の独特な生態や鮮やかな姿にひかれたが、読み込むうちにアリの出

す酸の水素イオン濃度(pH)など生命を動かす数の世界にのめり込んだ。数学研究を志し京都大学理学部を受験したが、文系科目



が振るわず失敗。代々木ゼミナールで浪人生活を始めた。当初は「数学だけであればよい」と開き直っていたが、数

めず苦戦。自宅に黒板を買い、聞く者のない授業をビデオ撮影しては分析を繰り返した。生徒の質問や誤答例の記録も始めた。「負の数同士をかけるとなぜ正になるのか」。

の個別指導塾「プロジェクトシニアセミナー」を福岡市に開設。そして佐賀を中心に教員向けの講習を始めた。教員向け講習では、体育館などに生徒を集め、教員らの前で授業をして見せる。その後、教員に対して授業の方法や宿題の出し方などを提案。

学講師、土師政雄との出会いが定松を変え、雑談の中で、社会課題の解決や芸術作品の発展に数学がどう関わってきたかを教わり、幅広い教養の重要性を痛感した。

「この問題を解かせる狙いは?」などと問いかけ、解答や意見を個別に受け付ける。定松の講演を聞いた佐賀県唐津市の高校教諭は「応用力を引き出す授業に目からうろこが落ちた。生徒に解かせる問題を吟味する重要さも痛感した」と話す。定松はこれまで、佐賀や長崎などの30校以上で教員向け講習を実施。生徒の指導に情熱を注ぐ傍ら、教員向けの活動も九州全体、全国へと広げたいという。

浪人生らと接する中、学校教育の非効率さへ問題意識を強めていた。新たな挑戦への興味も故郷の両親を案ずる思いもあった。翌11年に代ゼミを辞め、難関大志望者ら向け

「来年は学が楽しさを伝える講師になる」と既に決意、「何でも学びたいから学部は関係ない」と前向きだった。専門の民事訴訟法のほか、欧州史や日本の古典も学んだ。

2010年、一通のメールが転機となった。故郷、佐賀県の教育委員会の担当者からだった。定松の技術を教員に見せ、指導方向上に役立てたいという。

浪人生らと接する中、学校教育の非効率さへ問題意識を強めていた。新たな挑戦への興味も故郷の両親を案ずる思いもあった。翌11年に代ゼミを辞め、難関大志望者ら向け

5万人分の疑問 集め分析重ねる

慶大卒業後、数学講師として代ゼミに採用された。当初は生徒がますます理由をつか

受験生の初陣、センター試験は14日だ。「学んだことは財産。受験は一つの通過点と思いつ前に臨んでほしい。力強くエールを送る。」

またまっ・かつゆき 1960年生まれ、佐賀市出身。84年慶応大法学、代々木ゼミナールの講師に。代ゼミ本校などで約

30年間講師を務め、2011年から個別指導塾「プロジェクトシニアセミナー」代表。学校教員向けの講習も手掛ける。

文中敬称略 西部支社 荒牧寛人 写真 塩山賢

またまっ・かつゆき 1960年生まれ、佐賀市出身。84年慶応大法学、代々木ゼミナールの講師に。代ゼミ本校などで約

30年間講師を務め、2011年から個別指導塾「プロジェクトシニアセミナー」代表。学校教員向けの講習も手掛ける。

文中敬称略 西部支社 荒牧寛人 写真 塩山賢